第１分科会

表現から接続を考える

【分科会概要】

本分科会では全体テーマを受けて、身体表現、音楽表現、造形表現といった子どもの表現活動について、幼児期に体験した表現活動に基づいて小学校ではどのような授業が行われているのか。また小学校での音楽・図工・体育の学習を見通して、幼児教育の現場ではどのような表現活動が実践されているのか。

分科会の前半では幼稚園と小学校の事例をお二人の先生に実践報告していただきます。分科会の後半ではその２つの事例を手がかりに、参加者の皆さんと意見交換をしながら幼児教育と小学校の架け橋となる表現活動のあり方について考えていきたいと思います。

事例報告: 伊藤　裕子（学校法人裕学園　谷戸幼稚園　園長）
　　栗原　知子（元お茶の水女子大学附属小学校　主幹教諭）
意見交換
司会:安倍　大輔(白梅学園大学　准教授)　、花原　幹夫(白梅学園短期大学　名誉教授)

第 2 分科会

ことば 、絵本から接続を考える

【分科会概要】

幼児期から児童期にかけての学びの基礎力を培う時期には、幼保小が互いの教育への理解に基づいた考えのもと、その架け橋となる接続のあるカリキュラムの構築が必要です。そのカリキュラムでは、小学校ならびに保育現場ともに身近な教材の一つとして「絵本」を重要視する傾向にあります。

しかしながら、接続のあるカリキュラム以前に、幼児期と児童期それぞれが、日常からどのようなねらいや目標を持って「絵本」という教材を活用し、子どもの学びを支えているのか、さらには「絵本」によってどのような子どもの育ちの姿が現れているのか、互いの現場の相互理解が深められているとは言い切れません。

本分科会では、絵本を活用した教育・保育実践に取り組んできた石神井町さくら保育園園長の有馬氏と昭島市立光華小学校教諭の安藤氏をお迎えし、具体的な実践内容に関する話題提供をいただきます。その後、ご参加の皆様と共に、幼児期と児童期の「絵本」を活用した教育方法を捉えるだけでなく、ことば、絵本から接続のあるカリキュラムについてのあり方について意見交換を行い、今後の教育への展望を検討していきたいと思います。

話題提供: 有馬　聡子（練馬区立石神井町さくら保育園　園長）
　　安藤　浩太（昭島市立光華小学校　主任教諭）
指定討論: 吉永　安里（國學院大學人間開発学部　准教授）
司会:仲本　美央(白梅学園大学　教授)

第 3 分科会

インクルーシブ保育、共生から接続を考える

【分科会概要】

近年、保育現場では、障がいや発達障がい、外国ルーツ、貧困、虐待など様々な背景がある子どもが在籍し、標準的な発達にある多数の子どもを想定して保育しようとすると立ち行かなくなってしまうことが多くなりました。従来の統合保育では、個別に支援することで、集団に適応させていくことを目指していました。ですが、その考え方で保育を進めていこうとすると、行き詰まってしまうことが多いのではないでしょうか。

インクルーシブ保育は、統合保育の延長線上にあるものではありません。子ども一人ひとりが異なる背景や意見をもつ存在で、クラスに集まってくる子どもたちは元々多様性に満ちていると考えることが前提になっています。その上で、インクルーシブ保育とは何かと言えば、誰もが排除されず、一人ひとりの子どもの意見が尊重され、対話を通して共に育ちあう環境をいかに作っていくかを追求する保育となります。

本分科会では、インクルーシブ保育の実践として、なかの幼稚園の保育について紹介していただきます。支援が必要とされる子どももそうでない子どもも一人ひとりが持ち味を発揮し、意見を聴き合いながら、自分たちの遊びや活動を作り上げていくような保育環境をどのように生み出しているのか、また、そこで育ってきた子どもたちの姿を話していただきます。さらに、そのようなインクルーシブ保育のなかで育ってきた子どもが、就学後、どのような困難に直面しているのかについても言及していただきます。

現在、学校の中でもインクルーシブ教育が推奨されているなかで、幼保小の接続が重視されています。ただし、支援が必要とされる子どもの困難さにどう対応するかを考えるための情報交換に終わっていることが多く、インクルーシブ保育のなかで大切にしてきたことや子どもたちが育ちあってきたプロセスを共有するところまでには、残念ながら至っていないというのが現状だと思われます。

本分科会をきっかけに、改めて、インクルーシブ保育・教育で大切にしていることを確認し、接続に向けて何ができるのか、すぐに答えは出てこないかもしれませんが、参加者の皆さんと考え合いたいと思います。

【分科会の流れ】

15:00～15:05　企画主旨・実践報告者とコメンテーターの紹介
15:05～15:50　実践報告　　高橋　詩子(学校法人八王子中村学園　なかの幼稚園　園長)
15:50～16:05　実践コメント　芦澤　清音(帝京大学　教育学部　教授)
16:05～16:50　質疑応答・グループディスカッション
16:50～17:00　まとめ
司会：五十嵐　元子(白梅学園大学　准教授)